

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400237	事業の開始年月日	平成27年10月1日
		指定年月日	平成27年10月1日
法人名	株式会社学研ココファン		
事業所名	ココファンフォーム湘南の杜		
所在地	(253-0004) 神奈川県茅ヶ崎市甘沼272		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

引き続き新型コロナウイルス感染防止に明け暮れた2021年でしたが、湘南の杜では入居者様、スタッフとも感染することはなかったです。運営推進会議も書面にて配布させていただき、いただいたご意見は労をねぎらうものばかりで、地域の皆様のあたたかなお気持ちに感謝するばかりでした。2回のコロナワクチン予防接種もスムーズに終わることができ、特に副反応もなく、2022年2月には3回目の接種を予定しております。2021年11月からは、制限付きではありますが面会ができるようになり、ご家族等と会う機会が増え、少しずつ入居者様のストレスが軽減できています。1階2階合同の月に1度の体操イベント「タオルスストレッチ」も再開でき、普段はあまり体操しない入居者様も積極的に参加して身体を動かしている姿に驚き、改めて外部の方の刺激の大切さを実感いたしました。新型コロナウイルスの感染が終息しましたら、以前のようにボランティアの方々をお招きして、またご家族が気軽に立ち寄れるような、にぎやかな日々の暮らしを取り戻していきたいと願っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年10月26日	評価機関 評価決定日	令和6年1月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR「茅ヶ崎駅」北口から神奈中バス(9分乗車)の「八幡神社前」で下車し、徒歩2分のところにあります。3階建ての1階と2階がグループホームです。3階はデイサービスがあり、小さな庭や駐車場もあり、分かりやすい場所です。近くには、コンビニエンスストア、寺社、公園もあり、散歩のコースにもなっています。

<優れている点>

虐待防止を徹底し、接遇向上防止虐待委員会を設けています。職員は毎月自己評価シートを使い振り返りをしています。自己評価を集計し、出てきた課題を月の目標に掲げ、毎日就労後に目標の達成度を自己チェックしています。徹底した振り返りより、虐待防止に努めています。また、研修と勉強会にも注力しています。10月は、18時から協力医療機関と連携し、職員の参加による薬勉強会では「減薬」を学び知識を深めています。研修は、実施記録を作成するほかに「研修振り返り表」として、研修の印象や感想・意見を求めて意識化を図るなど取り組んでいます。

<工夫点>

脱衣所に写真付きの「入浴時の準備」を掲示することで、安全に入浴介助ができるようにしています。病状によって異なる入浴介助にも、掲示することにより、どの職員にも支援方法を分かりやすくしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ココファンフォーム湘南の杜
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			○ 2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			○ 3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			○ 3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼前に、理念を月曜日、Spiritを火曜日、介護憲章10ヶ条を2項目ずつ水曜日から日曜日、朝礼前に唱和し実践につながるよう努めています。	事業所の理念や「スピリッツ」（事業所の運営に関する指針）は、企業グループの理念に基づき、朝礼前に唱和を行い、管理者と職員は共有を図っています。日常のサービス行動の一つひとつが、理念に結びつくよう努めています。評価の結果は、事務所、キッチンに掲示し、周知を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアの依頼や発表の場を受け入れ、少しずつ交流の場が増えています。入居者様の物を購入する際、地域コンビニやスーパーを使用しています。運営推進会議を通し、民生委員より様々な情報を得て、地域の防災訓練等に参加できればと思っています。	地元自治会に加入し、利用者が地域とつながりながら、神社の祭りや地域の夏の祭り・イベントなどに参加しています。運営推進会議において、11月に実施される地域一斉の災害時の安否確認に関する情報を得て、参加し地域との交流を図ります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアの受け入れ時に認知症の方々の余暇の楽しみ方や接し方を理解して頂き地域での高齢者とのかかわりに支援を通じて役立てています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議実施時に頂いたアドバイスやご意見等を参考に改善、サービス向上に努めています。地域の避難訓練への参加のお誘い等あり、参加できればと思っています。ボランティアや色々な行事を行って欲しい意見が多いので、行っていきます。	運営推進会議は、単独開催のみならず、5月には3階のデイサービスと合同で開催し、民生委員、それぞれの利用者・家族、両事業管理者などが参加しています。災害訓練の呼びかけに応じ、門扉に手ぬぐいをかけて、異常なしを知らせる訓練にも参加し、また安全面から門扉の灯りを直しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談員の方々との連携を図り、認知症や施設介護の理解を得て協力関係を築いています。又、介護保険関連汚帳票や消防資料作成を適切にするよう努めています。	訪問する茅ヶ崎市の介護相談員と連携を図り、認知症や介護の取り組みの指導を受け、協力関係を築いています。介護保険関係の通知や手続き、高齢者支援の取り組み、行政報告、ワクチン接種の推進など良好な関係が維持できるよう心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を設置し毎月1回行い、職場への周知徹底を図る為に研修を設け、ひとり一人の理解と意識を深め不適切なケアを見直し取り組んでいます。	身体拘束禁止委員会は3ヶ月ごとに開催し、所長・管理者及び全ての職員に周知を図っています。研修資料は、「身体拘束ゼロの手引き」を利用しています。8月には「介護の力で虐待・身体拘束をなくそう」と月別のテーマを掲げて、事業所研修を行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	チェックリストを全職員に回答してもらっている。委員会へ参加し、職員への周知徹底し、虐待が見過ごされる事がないよう防止に努めています。	職員に毎月自己チェックシートを配布し、接遇向上防止虐待委員会において検討します。その課題から、10月には「言葉づかいに気をつけて」とする標語に結び付けています。理解と意識を深めるため、身体拘束のないケアに取り組んでいます。月1回の定期研修に併せて虐待防止委員会を行い、虐待が見過ごされることのないように防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	顧客の状況に応じて必要な支援が行なえるよう関係者と話し合っている。施設勉強会で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約時に、重要事項説明、また入所後の不安点など聞き取り説明、同意を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価の利用者様やご家族様の言葉はもちろん、苦情や要望等、職員に周知、出来る事は所長等相談し反映しています。また玄関にご意見箱を設置し利用していただけるようにしています。	運営推進会議に参加する利用者や家族、イベント参加の家族からの意見のほかに、玄関の意見箱、毎年の家族向けアンケート、特に、日常のやり取りから意見を出しやすくしています。利用者の健康状態を心配する家族には、常駐する看護師につなげ、安心してもらえるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング時に機会を設けています。また、契約更新時や日常業務の中でも感じた事など意見を聞いたりしています。	運営に関する職員の意見や提案は、毎月フロアごとに行っています。利用者を見守りながら広いキッチンで行うことで多くの職員が参加できるようにしています。また、職員面接・契約更新、日常業務の中から聞く機会を設けています。物品の購入や修繕の要望が出されることが多く、対応に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	期待役割面談があり、配慮していただいていると思います。ハラスメントの対策も定期的に研修があり取り組んでいます。	就業規則は、事務所にファイルを備えて、給与水準、職場環境、健康管理、ハラスメント対策など各自が向上心をもって働く職場となるよう整備に努めています。所長は、年2回職員と直接懇談する機会があり、就業環境の整備に取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内で月1回テーマを決めて研修と勉強会を設けています。職員のモチベーションの維持と向上を図るために専門職として向上に努めています。	事業所は、月ごとにテーマを定めています。介護力の意識向上とチームケアの役割の充実を目指すため、研修と勉強会を行っています。10月は、18時から協力医療機関と連携し、職員の参加による「薬勉強会」を行います。研修は、実施記録を作成するほかに「研修振り返り表」として、研修の印象や感想・意見を求めて意識化を図るなど取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの影響や人員不足の時もあり、他施設への訪問見学はなかなか交流するのは難しい状態ですが、ZOOM研修等で他施設との意見交換を行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様、ご家族、関係者等に話を聞き、より過ごしやすいう、声掛け、傾聴行ない、環境を整備し、安心してお過ごしいただけるように信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様、利用者様のおかれている状況を聞き取り、施設にて対応可能なご要望には対応できるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最も必要としている対応に重点を置くように努め、施設内のサービス以外のマッサージや歯科等のサービスの利用も提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の出来る事に着目し、利用者様から学ぶ心を持ち、寄り添うような関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族関係も様々であるので、利用者様、ご家族様からお話を親身になって伺い、共に利用者様を支えていけるような関係を築くよう心掛けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会などの規制も緩和され、ご家族様との外出も出来るようになりました。ご家族様以外に知人の方の面会もしていただいております。	利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所の把握は、入所契約時の面談で行っています。コロナ感染防止策による規制が制限なく解除され、理容店、買物場所、老人クラブに行くまではまだあまり戻せていませんが、家族や知人が訪問した際や家族との外出には大切に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性を配慮し、席の配置を考慮しています。レクリエーションや体操、日常生活の様々な場面で、利用者様同士が関わり合いを持ち、関係作りができるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後に相談を受けた時は、出来る範囲でアドバイスを行い、分からない事があった時はいつでも聞いて下さいと伝え、ご家族にも寄り添っていただけるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ずご本人様・ご家族様の意向を伺い把握、ご本人様の立場になって検討するように努めています。	一人ひとりの思いや暮らし方の思いは、利用者本人や家族から把握するよう努めています。自主的にイベントに参加したい、事業所の手伝いをしたいとの思いを話せずにいる人など意思表示が困難な利用者や苦手な利用者には、日頃のケアサービスの中から、会話や活動・行為の中から汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントからの情報だけでなく、日々のコミュニケーションからの情報収集に努め、ミーティング等で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの環境の情報など大事にしてケアに活かせるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングまでに意見を集約、出来る事に注目し、ケアマネジャーが計画作成に役立てています。	ケアプランの作成は、各フロアの検討やモニタリングにより、本人の意向を確認します。毎月のミーティングまでに、家族の意見や医師や看護師と連携を図り準備します。プランの見直しは、3ヶ月ごとに本人・家族と話し合い、同意のもとに行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入、他スタッフの記入分も読み返し、ミーティング等で情報共有し、実践やケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。	来所が難しい家族に代わり日用品の購入や、嗜好品を個別に購入提供し、柔軟な対応ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアとのふれあいを設けながら豊かな暮らしを楽しんだり、施設の前で見れる御神輿や出初式を見て季節の雰囲気を感じていただけるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療の他に、臨時往診にも対応しています。又、ご本人様、ご家族の希望に応じて他医療機関も受診でき、適切な医療を受けられるよう努めています。	常勤看護師と非常勤看護師により、日々の入居者の状態を把握しています。夜勤帯に症状で悩む場合にもすぐに所長から看護師に伝え、訪問医に確認できる24時間体制を整備しています。提携調剤薬局と横浜薬科大との合同の対面による勉強会で「減薬」についても職員は学んでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ミーティング時の他、日常的に状態報告などを密に行い対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連携し状態把握に努めています。退院時には訪問委への情報提供をしていただき状態の把握と回復への支援が的背うに出来るように対応しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様の要望も汲み取り、訪問医・看護師・ケアマネを中心に相談しながら対応しています。早い段階から話し合いを行えず、情報共有ができていない事が課題となっています。	職員は日頃より看取りケアを学んでいます。終末期に入った場合には、入居者一人ひとりの「看取りの対応」を看護師とケアマネージャーが作成し、職員が統一したケアを行えるようにしています。看取り経験が無い職員も状況判断ができるような体制を整えています。看取り後、家族から感謝の手紙も貰っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	必ず訪問医・看護師と連携して対応するように努めています。職員個々で意識や対応に差があるので、定期的に研修等を行ない、実践力を身につけるように努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回行っています。運営推進会議で民生委員の方から、地域の避難訓練への呼びかけがあり、参加していき、地域の消防団などの協力も得られるように取り組んでいきます。	門扉にタオルをかけて無事を知らせる地域の安否確認訓練にも参加しています。夜間想定訓練では、夜勤専従職員が消防機関への通報や、職員への緊急連絡、安全確保の訓練を他の職員が見守る中一人で行っています。休みの日の職員にも連絡を行い、非常災害時に備えています。訓練は職員の不安の解消にもなっています。	備蓄リストや消費期限など、職員全員が災害時の備えを把握できる仕組みを作ることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーに配慮しながら、相手の話を否定せず受容しながら、丁寧なお声掛けをするように努めています。毎月、自分自身・他者の評価を行なって接遇向上に努めています。	法人品質管理部が作成した「個人情報とプライバシー保護と尊重」で学んでいます。排泄介助時や入浴時にも必ず声掛けをする等の他、接遇に重きを置き、法定研修ではない接遇研修も行っています。接遇向上虐待防止委員会が毎月の目標を定め、丁寧な言葉かけを周知徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけ声掛けを行ない何う様に心掛けています。言葉の理解が難しい利用者様等には、ジェスチャーや言葉を短くし分かりやすいようにして自己決定の支援を行ったり、相手のサインを見逃さないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	限られたスタッフの人員配置の為、難しい事もありますが、無理強いせず、一人ひとりのペースを大切にして支援するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2カ月に1回訪問理容があり、カット以外にもヘアカラーが出来るようになってきました。男性の方には毎日シェーバーでの髭剃りを行なっていただいています。介助が必要な方にはお声掛けしながら失礼の無いよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きやお重拭き等のお手伝いが出る方には、お願いをしています。	職員の業務削減や感染症の観点により、法人による配食サービスで食事を提供しています。残食も殆どありません。刻み食の人が全量摂取していることから食事形態に戻す提案なども職員から出ています。白米が進まない人にふりかけをかけるなど楽しく食事ができる工夫もしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	訪問医・看護師と相談、体重の増減に注意しながら支援しています。表に記録して食事量・水分量を把握し、摂取量が少ない時は、嗜好品やゼリー等を用いて確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施と、個別契約による訪問歯科受診を行なっています。義歯があるかたは夜間帯に消毒をおこない、清潔にするように努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立支援に向け残存機能に応じリハビリパッドやパットの使用、定時誘導等を考慮しています。立位・座位が可能な場合はトイレでの排泄を心掛けています。	個々に合わせて、適宜誘導や声掛けを行っています。自分でできることはしてもらい、車いすの人にも一度立位を維持してもらい、難しい場合に支えたり、パットを交換するなど残存能力を活かすような支援に努めています。介助時には必ず事前に行動を言葉で伝えることで安心とプライバシーの配慮にも心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や運動のレクリエーションに参加していただいたり、水分を多く摂取していただくようにお声掛けをしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回以上とし、一日のスケジュールに沿った内容(1日3名)になっています。その中で一人ひとりの希望やタイミング等考慮し、衛生面を重視して入浴できるように努めています。	認知症の症状により、入浴を「面倒だ」「大変」という意識の人にも、その人に合わせた明るい声掛けや、入浴後の飲み物などの楽しみを伝える事で入浴してもらえるような工夫をしています。脱衣所に写真付きの「入浴時の準備」を掲示することで、どの職員も安全に入浴介助ができるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣を尊重するよう努め、その時の状況に応じて安心して眠れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問医・看護師・薬剤師と連携、服薬時には間違えないように、服やつくんを用いて支援しています。毎月2回の医師の受診後は症状の変化に注意するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるようお手伝いやレクリエーション、普段の会話等模索しながら支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や体調を伺いながら近所への散歩、玄関先での外気浴等をその方に応じた移動方法(車椅子等)で行なっています。又ご家族様との外出も密を避けていただくように伝えできるようになりました。	気候が良い日には近隣の住宅街に立地する酪農場まで散歩に出かけ、牛を眺めています。有形民俗文化財が祭られている近くの神社までお参りにも行っています。長い階段を登ることは困難ですが、階段下でお参りし、日々の生活の中で五感が刺激できるような支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理に関しては法人内での事情もありトラブル防止の為施設で管理しており、利用者様の個人での所持はしない様にご家族様にもご説明、ご理解を得ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望がある利用者様に対してはご家族に確認をとり、電話をしていただいたり、手紙を書いていただき、対応しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	衛生管理も含め居心地の良い空間づくりに努めています。玄関や廊下等は、レクリエーションで一緒に四季を感じられるような飾りやちぎり絵、イベント等の写真を飾っています。	トイレの場所が分かるように立体的に目印をつけ自分で行けるような工夫をしています。大きく確保したリビングや廊下を歩行器を使用し、自由に自分のペースで歩いている人もいます。安全だけではなく、日常生活の中で筋力低下の防止を行えるようにしています。自身で歩行器を使用し、3周歩く事を習慣としている人もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは利用者様同士の相性を考慮し席が決まっていますが、食事以外の時間帯は自由に移動したり、集まったりしてお過ごししていただいています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明・エアコン・ベット(布団)・引き戸のタンスが備わっており、ご本人様やご家族の希望によりテレビやハンガーラック、お仏壇を持って来られる利用者様もおられます。レクリエーションで行なった塗り絵を飾ったりもしています。安全に留意し個々に合わせた居室環境となっています。	入居前の居室を再現したような好みの部屋にしている人もいます。カレンダーに入浴や大切な事を記載したり、自宅から沢山の書物を持ち込み、職員に「読む？」など声掛けしてくれる人もいます。電化製品のコンセントを抜いてしまう人には、入居者が居室にいない時や就寝後にエアコンを付けて快適な温度にするなどの配慮もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の個室の入口には名前と写真を貼り、トイレは分かりやすいように絵を戸に貼ったり、タンスの引き出しには仕分けシールを貼り分かりやすく自立した生活が送れるように支援しています。		

事業所名	ココファンフォーム湘南の杜
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼前に、理念を月曜日、Spiritを火曜日、介護憲章10ヶ条を2項目ずつ水曜日から日曜日、朝礼前に唱和し実践につながるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアの依頼や発表の場を受け入れ、少しずつ交流の場が増えています。入居者様の物を購入する際、地域コンビニやスーパーを使用しています。運営推進会議を通し、民生委員より様々な情報を得て、地域の防災訓練等に参加してければと思っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアの受け入れ時に認知症の方々の余暇の楽しみ方や接し方を理解して頂き地域での高齢者とのかわりに支援を通じて役立てています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議実施時に頂いたアドバイスやご意見等を参考に改善、サービス向上に努めています。地域の避難訓練への参加のお誘い等あり、参加できればと思っています。ボランティアや色々な行事を行って欲しい意見が多いので、行っていきます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談員の方々との連携を図り、認知症や施設介護の理解を得て協力関係を築いています。又、介護保険関連汚帳票や消防資料作成を適切にするよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を設置し毎月1回行い、職場への周知徹底を図る為に研修を設け、ひとり一人の理解と意識を深め不適切なケアを見直し取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	チェックリストを全職員に回答してもらっている。委員会へ参加し、職員への周知徹底し、虐待が見過ごされる事がないよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	顧客の状況に応じて必要な支援が行なえるよう関係者と話し合っている。施設勉強会で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約時に、重要事項説明、また入所後の不安点など聞き取り説明、同意を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部評価の利用者様やご家族様の言葉はもちろん、苦情や要望等、職員に周知、出来る事は所長等相談し反映しています。また玄関にご意見箱を設置し利用していただけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング時に機会を設けています。また、契約更新時や日常業務の中でも感じた事など意見を聞いたりしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	期待役割面談があり、配慮していただいていると思います。ハラスメントの対策も定期的に研修があり取り組んでいます。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内で月1回テーマを決めて研修と勉強会を設けています。職員のモチベーションの維持と向上を図るために専門職として向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの影響や人員不足の時もあり、他施設への訪問見学はなかなか交流するのは難しい状態ですが、ZOOM研修等で他施設との意見交換を行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様、ご家族、関係者等に話を聞き、より過ごしやすいよう、声掛け、傾聴行ない、環境を整備し、安心してお過ごしいただけるように信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様、利用者様のおかれている状況を聞き取り、施設にて対応可能なご要望には対応できるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最も必要としている対応に重点を置くように努め、施設内のサービス以外のマッサージや歯科等のサービスの利用も提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の出来る事に着目し、利用者様から学ぶ心を持ち、寄り添うような関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族関係も様々であるので、利用者様、ご家族様からお話を親身になって伺い、共に利用者様を支えていけるような関係を築くよう心掛けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会などの規制も緩和され、ご家族様との外出も出来るようになりました。ご家族様以外に知人の方の面会もしていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性を配慮し、席の配置を考慮しています。レクリエーションや体操、日常生活の様々な場面で、利用者様同士が関わり合いを持ち、関係作りができるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後に相談を受けた時は、出来る範囲でアドバイスをし、分からない事があった時はいつでも聞いて下さいと伝え、ご家族にも寄り添っていただけるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ずご本人様・ご家族様の意向を伺い把握、ご本人様の立場になって検討するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントからの情報だけでなく、日々のコミュニケーションからの情報収集に努め、ミーティング等で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの環境の情報など大事にしてケアに活かせるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングまでに意見を集約、出来る事に注目し、ケアマネジャーが計画作成に役立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入、他スタッフの記入分も読み返し、ミーティング等で情報共有し、実践やケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な対応ができるよう取り組んでいます。	来所が難しい家族に代わり日用品の購入や、嗜好品を個別に購入提供し、柔軟な対応ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアとのふれあいを設けながら豊かな暮らしを楽しんだり、施設の前で見れる御神輿や出初式を見て季節の雰囲気を感じていただけるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療の他に、臨時往診にも対応しています。又、ご本人様、ご家族の希望に応じて他医療機関も受診でき、適切な医療を受けられるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ミーティング時の他、日常的に状態報告などを密に行い対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連携し状態把握に努めています。退院時には訪問委への情報提供をしていただき状態の把握と回復への支援が的背うに出来るように対応しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様の要望も汲み取り、訪問医・看護師・ケアマネを中心に相談しながら対応しています。早い段階から話し合いを行えず、情報共有ができていない事が課題となっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	必ず訪問医・看護師と連携して対応するように努めています。職員個々で意識や対応に差があるので、定期的に研修等を行ない、実践力を身につけるように努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回行っています。運営推進会議で民生委員の方から、地域の避難訓練への呼びかけがあり、参加していき、地域の消防団などの協力も得られるように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーに配慮しながら、相手の話を否定せず受容しながら、丁寧なお声掛けをするように努めています。毎月、自分自身・他者の評価を行なって接遇向上に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけ声掛けを行ない伺う様に心掛けています。言葉の理解が難しい利用者様等には、ジェスチャーや言葉を短くし分かりやすいようにして自己決定の支援を行なったり、相手のサインを見逃さないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	限られたスタッフの人員配置の為、難しい事もありますが、無理強いせず、一人ひとりのペースを大切に支援するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2カ月に1回訪問理容があり、カット以外にもヘアカーが出来るようになってきました。男性の方には毎日シェイバーでの髭剃りを行なっていただいています。介助が必要な方にはお声掛けしながら失礼の無いよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きやお重拭き等のお手伝い出来る方には、お願いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	訪問医・看護師と相談、体重の増減に注意しながら支援しています。表に記録して食事量・水分量を把握し、摂取量が少ない時は、嗜好品やゼリー等を用いて確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施と、個別契約による訪問歯科受診を行なっています。義歯があるかたは夜間帯に消毒をおこない、清潔にするように努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立支援に向け残存機能に応じリハビリパンツやパットの使用、定時誘導等を考慮しています。立位・座位が可能な場合はトイレでの排泄を心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や運動のレクリエーションに参加していただいたり、水分を多く摂取していただくようにお声掛けをしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週2回以上とし、一日のスケジュールに沿った内容(1日3名)になっています。その中で一人ひとりの希望やタイミングが等考慮し、衛生面を重視して入浴できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣を尊重するよう努め、その時の状況に応じて安心して眠れるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問医・看護師・薬剤師と連携、服薬時には間違えないように、ソトを用いて支援しています。毎月2回の医師の受診後は症状の変化に注意するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるようお手伝いやレクリエーション、普段の会話等模索しながら支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や体調を伺いながら近所への散歩、玄関先での外気浴等をその方に応じた移動方法(車椅子等)で行なっています。又ご家族様との外出も密を避けていただくように伝えできるようになりました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理に関しては法人内での事情もありトラブル防止の為施設で管理しており、利用者様の個人での所持はしない様にご家族様にもご説明、ご理解を得ています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望がある利用者様に対してはご家族に確認をとり、電話をしていただいたり、手紙を書いていたいただき、対応しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	衛生管理も含め居心地の良い空間づくりに努めています。玄関や廊下等は、レクリエーションで一緒に四季を感じられるような飾りやちぎり絵、イベント等の写真を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは利用者様同士の相性を考慮し席が決まっていますが、食事以外の時間帯は自由に移動したり、集まったりしてお過ごししていただいています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明・エアコン・ベット(布団)・引き戸のクヌが備わっており、ご本人様やご家族の希望によりテレビやパソコン、お仏壇を持って来られる利用者様もおられます。レクリエーションで行なった塗り絵を飾ったりもしています。安全に留意し個々に合わせた居室環境となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の個室の入口には名前と写真を貼り、トイレは分かりやすいように絵を戸に貼ったり、クヌの引き出しには仕分けシールを貼り分かりやすく自立した生活が送れるように支援しています。		

2023年度

事業所名 ココファンホーム湘南の杜
作成日： 2024年1月18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	備蓄リストや消費期限など、職員全員が災害時の備えを把握できる仕組みが出来ていない	指摘されて場所を確保し、すぐに対応しました。	すぐに取り出せる場所に設置し、職員にも周知しました。	対応済
2	30 ↓ 34	運営基準等の改正に伴い ①協力医療機関との連携体制の構築 ②新興感染症発生時等の対応を行う医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 協力医療機関との連携体制の構築、強化 協力医療機関との定期的な会議の実施 入院時等の医療機関への情報提供 医療機関からの患者受入れの促進 <ul style="list-style-type: none"> 協定締結医療機関と連携し新興感染症発生時等における対応の取り決めを行ない新興感染症発生時等の対応も協議を行う 感染症BCPの策定や感染症まん延防止のための研修・訓練の実施 施設内感染者の発生時に対応評価 感染制御等の実地指導を受ける事について評価 施設内療養を行う事への評価 	現在出来ている事も含め協力医療機関と打ち合わせ等を行い更に強化していく	12ヶ月
					ヶ月
					ヶ月